

2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名

自動走行の実現に向けた交通規制情報管理システムの構築

担当組織

京都府警察

研究代表者名

プロジェクトの目標、背景

自動走行を実現するためには、自動車が交通規制情報をリアルタイムに認識した上で制御を行う仕組が不可欠であることから、各都道府県警察で管理している交通規制情報を標準的なフォーマットで出力する機能を有する交通規制情報管理システムの整備・検証を行う。

プロジェクトの概要

平成27年度に実施した「交通規制情報の活用による運転支援の高度化に関するデータベースの構築及びモデルシステムの検討」事業により整備された京都府内の交通規制情報電子データ等を活用し、京都府公安委員会が管理する交通規制に関する情報及び道路情報、信号機に関する情報を管理する交通規制情報管理システムのモデルシステムを構築した。

1 モデルシステムの構築(ハードウェア、ソフトウェア、その他物品等の整備)

以下の機能を有するモデルシステムを京都府警察内に構築した。

- ① 京都府公安委員会が実施する個々の交通規制に係る意思決定、道路標識、信号機についての情報を、電子地図上の位置情報を有する電子データ(交通規制等情報)で一元管理できること
- ② 交通規制の実施等に係る公安委員会決裁事務、道路標識の設計・発注、交通規制関連統計の集計等、交通規制に関する各種事務を電磁的に処理できること
- ③ 交通規制等情報を、変換プログラムにより標準フォーマット化できること

2 交通規制情報電子データ等の移行及びデータの検証

平成27年度のSIP事業で整備された交通規制等情報の電子データ及び京都府警察が保有する交通規制等情報の電子データを、モデルシステムに全て移行した。

また、道路標識に関する情報の一部を、道路走行データ画像から抽出した標識情報と突合し、有効性を検証した。

今後の課題

- ・ モデルシステムを構築・運用することで効果検証を行い、追加・改良すべき機能の抽出等を図り、交通規制情報管理システムの標準仕様を検討、策定する。
- ・ 標準フォーマット化した交通規制情報を第三者機関へ提供する方策について検討する。